

今日のみことば

□ 9月17日(日) 出エジプト 17章

食物の欠乏が去ると、今度は水の欠乏に悩まされた。人々は主に求めないでモーセにつぶやいた。いつまでつぶやき、いつになったら神に信頼することを学ぶのであろうか。

□ 9月18日(月) 出エジプト 18章

モーセはミデアンで彼の家族と再会した。しゅうとエトロはモーセは最高指導者として激務を緩和するために、役割分担を提言、モーセは指導的役割を果たす人々を選んだ。

□ 9月19日(火) 出エジプト 19章

神は約束されたようにモーセは神の民をシナイ山に連れてきた。神はこのシナイ山において、ご自身の契約を民と立てられたのである。

□ 9月20日(水) 出エジプト 20章

神はご自身の民に、守るべき十誡とその他多くの律法を与えられた。十誡は神と隣人に対する私たち人間の義務の要約である。神の恵みによる救いを経験した者はその義務を遂行できる

□ 9月21日(木) 出エジプト 21章

ここには種々のおきてが記されていて、これらは古代の習慣法を成文化したものである。しかし神の民であるイスラエルの民の場合、さらに比類のないものとされた。

□ 9月22日(金) 出エジプト 22章

ここに記された諸規定は今日では無用であるとはいえない。そのままでは適用できないが、その意味を正しく理解した上でその原理を学び、それを今日適用するのである。

□ 9月23日(土) 出エジプト 23章

神がイスラエルに約束されたことを彼らが守ると言うことは彼らは勝利を得ると言うことでした。しかしそれは彼らが神に服従するという条件の下においてでした。

ろば No. 1833

2017年 9月17日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

マタイ 16:16

シモン・ペトロが答えた
「あなたこそメシア、生ける神の子です。」

立川バプテスト教会がこの地でイエス・キリストの福音を伝える器として用いられ、55年を経ました。神さまに感謝します。

私たちはナザレ人イエスを、キリスト・救い主と告白して、そのことをしっかりと語り伝え、一緒に救いの喜びにあずかりたいと願っています。イエスとはどのようなお方ですか。

それはクリスマスに聞かなければなりません。イエス・キリストの誕生の出来事です。聖書を通して私たちに伝えられた第一のメッセージは「はじめに神は天と地を創造された」です。神がすべてのものの主であるとの宣言です。神の「光あれ」との言葉によって、無の世界が光でおおわれ、神の創造の出来事が起こりました。

御心によって神は人間を創造され世界の真ん中に置かれました。その神の御心を受け止めることができなかった人間は、神の御心に背き、罪犯して神の慈しみから離れました。そして人間は様々な試練の中で、苦悩の中で生きるものとなりました。それでも神は、「良し」言われて創造されたものを愛し抜かれました。私たち人間も悔い改めを求められ待っておいでです。その神の愛がキリストの誕生となりイエスはしっかりと、神の御心を伝えておいでになりました。イエスと寝食を共にしてきた弟子たちにイエスは、「あなたがたは私を何者だというのか」と問われるのでした。シモン・ペ

トロは答えた「あなたこそメシア、生ける神の子です。」と。

私たちはイエスを何者だと告白していますか。私たちはイエスを神の子、メシヤである信じています、と告白されるのでしょうか、そこに私たちは何を期待しているのでしょうか。救い主・メシヤは、私たちのすべての不安を解消してくださり、永遠の平安を私たちに与えて下さるお方です。今日、私たちは世の終わりが近づいているかに感じさせられる日々を過ごしています。そしてそれは決して思い過ごしではありません。しかし多くは、楽観的にそのことをとらえています。人間がどれほど信頼に足る者かは、ご承知の通りです。私たちはもう一度しっかりとイエスを見つめさせていただかねばなりません。そして天地万物の主である神をしっかりあがめるものとならねばならないのです。

同志社大学の創始者・新島襄が二十歳の時初めて漢訳聖書の抜粋を読んだ。「原始に神天地を創造りたまえり」と言うはじめの一句を見て考え込んだ。考え込んだ彼はそこで、見えないが天地創造者である神を信じた。その後米国に密航した彼は、米国で受洗し、神学校で学び、宣教師となった彼は、キリスト教主義学校を起すべく日本に帰ってきました。

私たちも同じです。万物の神である主を知り、信じたとき、私たちは変えられました。神と生きる喜びを味わわせていただきました。この喜びを私だけのものにしておけなくなりました。その喜びを分かち合いたくなりました。そこに教会が起こってきたのではありませんか。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
士師記 8:22-25 それが畏となった

ギデオンに率いられたイスラエルの300の精鋭は、ミデアン人との戦いに大勝利を収めました。民は大喜びをして、ギデオンに王さまになってほしいと願いました。なんと言うことでしょうか。イスラエルの勝利は、神さまの働きによるものでしたのに。ギデオンはその願いを拒み、イスラエルを治められるのは神さまであることを宣告しました。

その代わりにと民の戦利品である金の耳輪の抛出を求めました。ギデオンはそれで「エフォド」を作りました。エフォドとは祭司の装飾具のことです。ギデオンは神から「士師」として立てられましたが、神さまが決められた「祭司」ではありません。政治的指導者は拒みましたが、宗教的指導者としての働きは担うとエフォドを町に置きました。彼のこの執着が彼の失敗となりました。民の各々が目に正しいと見えることを行い、ギデオンの行為が偶像礼拝への端緒となりました。



Read God's Word.